

## 2. 越前市三田村家・大瀧神社歴史資料調査 と今後の展望

竹中 友里代

本調査事業は令和2年から国庫補助事業として文化庁・福井県の補助を得て越前市が主体です。越前市は武生市と紙漉きの里今立町が合併し、平成17(2005)年10月1日に誕生し、越前国の国府があったことから「府中」と親しまれています。作業場所である「武生公会堂記念館」は、幕末に藩校「立教館」が最後に所在した所で、昭和4年(1929)に建設、昭和8年に武生町役場が1階に置かれ、塔を持つ特徴的な建物です。大改修工事で平成7年(1995)武生公会堂記念館として再出発、同年国の登録有形文化財に指定され、平成20年には越前市の博物館となりました。常設・企画展示だけでなく文化財や市史資料調査の拠点でもあります。

三田村家文書には、今立町時代に購入し現在越前市が所有する「三田村家文書」と、水害に遭い三田村家の土蔵に残った「三田村士郎家文書」(越前市寄託分)があります。さらに「大瀧神社文書」は、戦前に県社昇格を目指し三田村家から大瀧神社へ奉納されたものと神社伝来の資料を合わせたものです。ほかに今立町時代の購入分には、書籍類中心の「三田村家文庫」があり、今回の調査対象ではないものの三田村家及び地域資料として貴重です。この書籍目録をみると写本がきわめて多く、また日記や絵図、福井藩関係資料もあり、これらは古文書として再検討を要します。また写本の著者に三田村栗所の名があり、三田村家と紙漉の里における出版著作などの文化活動を紐解くうえで、今後の調査が期待されます。

### 調査参加者と日程

竹中友里代(特任講師)、岩本悠梨、武田知奈(以上、3回生)、北嶋阿弥、小島慧音、竹井優太、橋本唯、渡部凌空(以上、2回生)、Anna Dulina(京大D3)  
2022年9/3～5・22・21・28～30、11/24～26、12/22・23



写真1

三田村家文書の採寸・紙数記録作業  
武生公会堂記念館 第3展示室にて  
(2022年9月4日)



写真2

三田村家文書の写真撮影とデータ入力作業  
武生公会堂記念館 貴賓室にて  
(2022年9月29日)

#### 編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

---

京都府立大学文学部歴史学科

## フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2

---